

[子どもが遊べる大学]



はじめに

私たちは浜松学院大学に通う三年生です。現在、幼児教育について学んでいます。私たちの大学では浜松市子育て支援ひろば事業として、市民と大学・行政の協働により、あかちゃんや親子が利用する「ここみ広場」を開催しています。



これは、ボランティアの方が
手作りで作ってくれた
飛び出し君です。



トラックと
飛び出し君が
隣同士だ〜。



しかし私たちの大学は、正門から車と人の動線が同じであり、危険との隣あわせで親子が安心して遊べるような空間ではありません。



そのため広場に来てくれる親子が保育実習室以外で遊ぶことが出来ません。

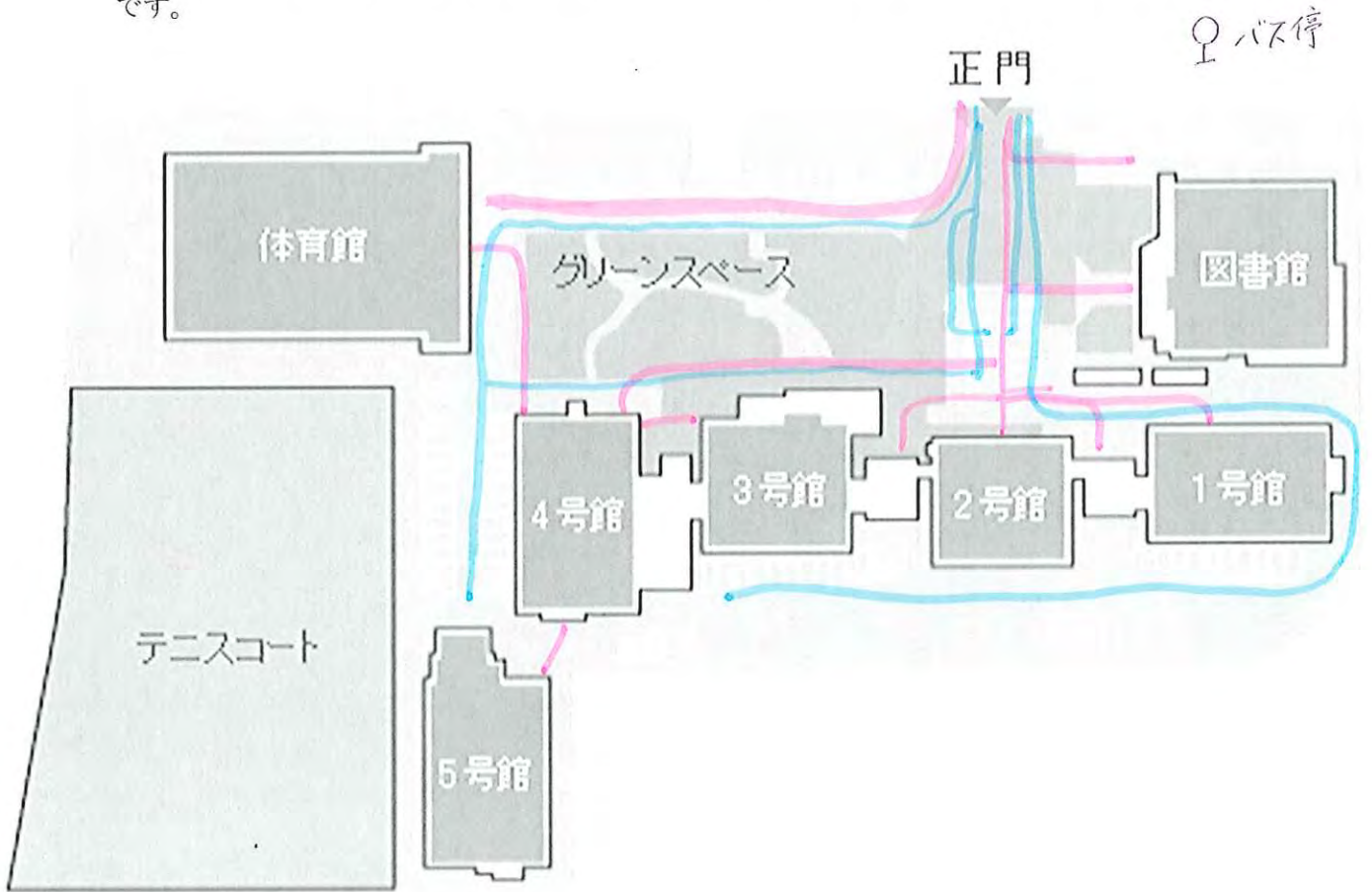


私たちはもっと子どもたちが無邪気に遊びその姿を見守る保護者の方々と近くなり、子どもが遊びに来たくなる大学を目指しています。そして私たちが保育者になったときに誇れる大学でありたいです。

車と人の同じ動線の危険性 6コマの写真で説明



下記の図は、現在の人と車の動線を表しています。赤線は人の動線、青線は車の動線です。



この図から私たちは、理想的な子どもたちが遊べる大学を創りました。

テニスコート

校舎

校舎

体育館

用具小屋

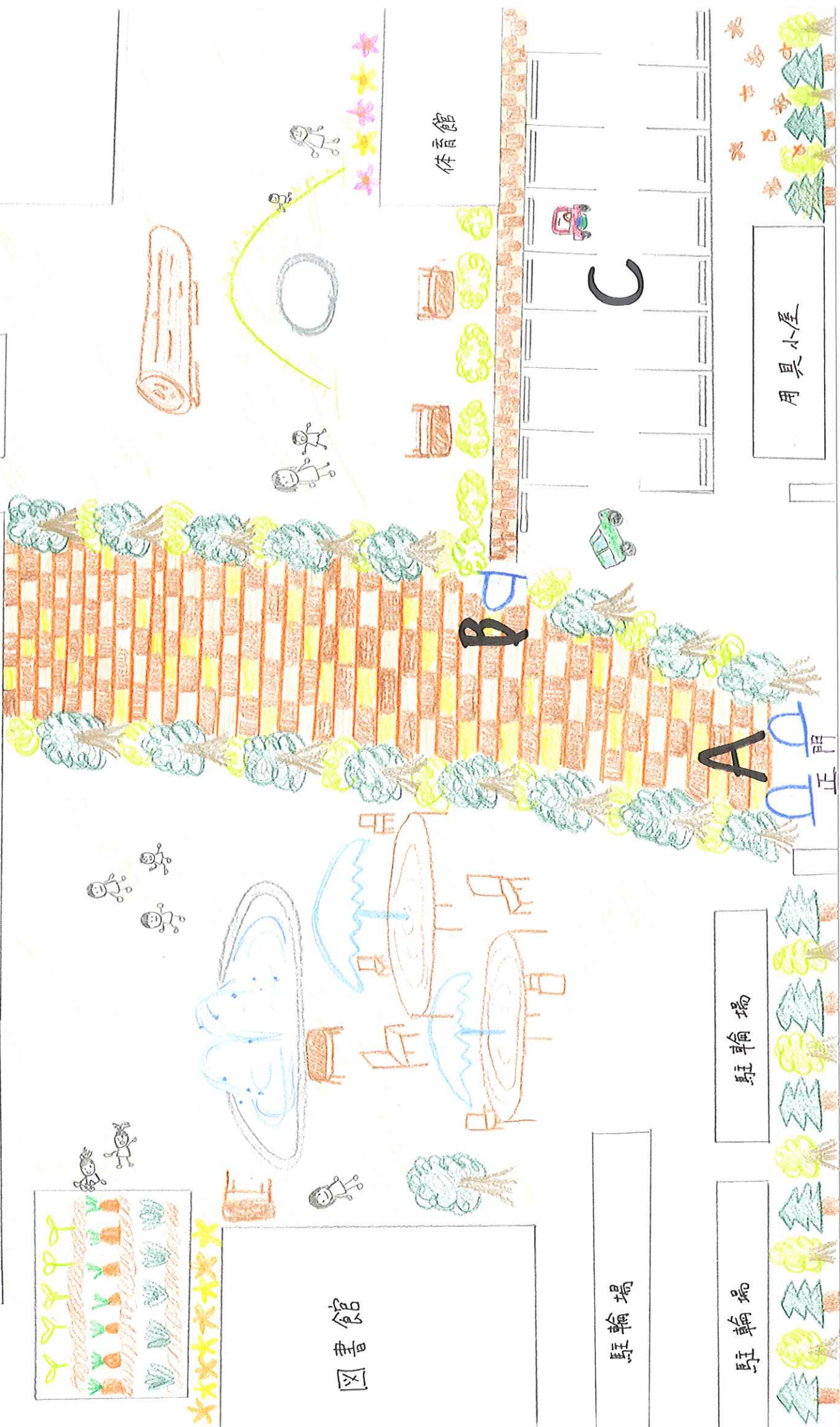
図書館

駐輪場

駐輪場

駐輪場

正門



まず人と車の動線を別々にして、グリーンスペースと安らぎの場を増やすことにしました。

AB 地点には、車止めをして車の通りを C のみにします。駐車場で、北側の駐車場のみ残し後は学校の裏へ移動させます。元々学校の裏側は駐車場がありましたが、駐車場の1つ1つのスペースが広いため、少し幅を狭くして空きスペースだったところも駐車スペースにしました。また、人の通る道をレンガで舗装することによって、視覚からも人と車の動線をわかるようにします。

現在ある大学前の駐車場は、子どもたちも遊べる噴水スペースを作り図書館から出てきた人も気持ち良い風が当たり過ぎしやすい空間を作ります。噴水前は、いくつかのベンチを置き、屋根があるスペースを作りくつろぎ空間をつくります。この場所は、「保育実習室と学生」と子どもと保護者をつないでくれるコミュニケーションの場です。

次に、今ある緑のスペースをもっとたくさんの人が使え、遊べる空間を作りたいです。この場所では子どもたちに季節を味わって欲しいです。現在大学では春には桜の花びらが咲き、秋にはもみじがみられます。またどんぐりを拾ってこまを作りこま大会を行いたいです。冬には落葉樹からたくさんの葉っぱが落ち、落ち葉の布団を作りみんなでお昼寝することもできます。

他には空きスペースを利用して野菜を作りたいです。子どもたちと学生と一緒に栽培することで大学生は、植物について学べ、子どもは土や虫といった自然や生命について学ぶことができ、保護者は食育について学べるスペースです。

大学は、大学生だけが通うのではなく、地域の方々と一緒に大学生活を送り、地域の中で子育てができる場所を創りたいです。

おわりに

子どもたちが室内だけでなく、屋外でものびのびと過ごすことのできる環境を作りたいです。また、地域の人と学生、地域の人と地域の人同士のコミュニケーションの場になってほしいです。

最後まで読んでいただき
ありがとうございました。

